

源頼朝が巻狩のための陣を構えたことが、滝の名前の由来です。現在でも豊富な富士山の湧水が清流「富士川」まで流れています。平日でも多くの方々が、水を探りに来られる名水の一つです。

陣馬の滝祭りは、地域住民が主体となっており、地元小学生による武者行列から、地元保育園児による竹太鼓、学年別の和太鼓から、婦人会の踊りなどが、約4時間にわたって続けられます。私も地域の診療所としてお誘いがあり、参加させていただきました。

大変うれしいことに、祭りでは診療所へお越しただく患者さんやご家族から声を掛けていただきました。発熱で診させていただいた小学生が元気に太鼓を叩く姿を見られ、ほっといたしました。

また、祭りを通して地元の方々が高齢者を本当に大切にしていること、敬意をもって対応していることが伝わってきました。富士宮市長や地域の地区長が来賓席に招かれていて、一方で、地元のご高齢者にも椅子の席が舞台前方に広く用意されています。席への案内や食事のおもてなしをされる50〜60代の方々には、敬老の精神や行動が定着していると感じました。

長幼の序は今も当たり前に残っており、それは子ども達にもはっきり表れています。夏休みにキャンプで朝霧を訪れ、診療所を受診した都市部の子どもたちと比べると、地元の小学生達の方が明らかに礼儀作法や言葉遣いがしっかりしています。



地域が育む敬老精神は小学生にも

す。目上の人に対する対応が小学生低学年にもできています。

最近多い「友達のような父親・母親」像ではなく、威厳のある親や祖父母がいらっしやるのでしよう。村では、どの子どもが誰の子どもかが

明確です。他人の子どもを叱ることもありません。子どもたちを、親や家族のみならず地域全体で育てていくという地域の精神が表れているのです。

過疎地域では、医療のみならず教育の問題も取りざたされています。確かに朝霧高原にも私立の小中学校や塾、予備校などはありませんので、受験勉強という点では都市部に劣るところがありません。しかし、教育を、自然の営みの理解や自然に対する感謝の念、地域社会で生きていくための知恵や訓練、そして社会での存在意義や貢献としてとらえた場合、この小学生や保育園児童たちは、恵まれた環境で最高の教育を受けているのではないかと思います。

子どもの人数が少ないため、チームスポーツをするにも人数確保が大変です。しかし、チームスポーツで体得していく一体感や協調性なども、和太鼓や村社会を通して体感しているのではないかと見受けられます。地元小学校教諭の話では、ほとんどの小学生が学校が始まる前に畑や田んぼの手入れをし、放課後は学校に残って遊んで帰ることです。子どもたちは、多くのことを実学として学んでいるのです。

さて、祭りが終わって自宅に戻ると、玄関のチャイムが鳴りました。地元の方が、トウモロコシとキュウリを持ってきてくださったのです。「私のような者に期待してくださっている、本当にがんばらなければ」とあらためて思った次第です。

特に専門外の皮膚科や小児科分野は、再度勉強中です。小児科に関しては専門書から、お母さんが読まれるような一般書籍まで、読み直しています。お子さまに、どのような点に注意して自宅でも過ごしていただくか、きめ細かく説明しなくてはならないからです。

地域医療では幅広い分野で生涯学習をしなくてはなりませんし、診療所を出た後も、地域の方々には私の行動や言動を見てもらいたいと思います。日々の生活を含めて、身が引き締まる思いです。

隔週水曜日掲載の連載です。大型連休とマンスリー号の発行があるため、今回は10月7日に掲載致します。

Profile：山本 竜隆

聖マリアンナ医科大学卒。医師・医学博士。アリゾナ大統合医療プログラムを経て、田舎&予防の地域活性型統合医療の構築を目指して活動中。